

めむろファーマーズマーケット 愛菜屋

芽室町東めむろ3条南1丁目1
TEL.0155-62-5315
●ホームページ
http://www.ja-memuro.or.jp/aisaiya

- 営業期間/5月～12月5日
- 営業時間/8:00～17:00(7～9月は～18:00、11月12日から9:00～16:00)
- 定休日/月曜・木曜(月曜が祝日の場合は営業)、5・11・12月は金曜・土曜・日曜のみ営業 ●P122台



じゃがいも、スイートコーン、かぼちゃは、旬の時期には各品約20種類が揃う。山わさび、ルバーブ、ピーツなどの珍しい野菜も扱い、年間約17,000件の地方発送も行っている。栽培履歴書の提出、残留農薬の検査実施など安心・安全に配慮。調理加工体験室、アイス屋等を併設している。

- 平成13年7月設立 ●参加会員数 102名 ●年間来客数 約176,000名 ●売場面積 363m² ●取扱品目 根菜類28%、果菜類25%、葉菜類13%、加工品11%、畜産物4%、豆類3%、菌茸類3%、花き類2%、果実類1%、その他10%

直売カフェ Muu

旭川市西神楽1線17
TEL.0166-75-3469

●ホームページ
http://www.muminmura.com

- 営業期間/通年
- 営業時間/10:00～17:00
- 定休日/水曜 ●P8台



夢民村で育てた野菜やお米のほか、北海道の安全で美味しい加工品を各種揃えている。併設のカフェでは、地元食材を使用したメニューを提供。使用している食材は直売所で購入することができる。

- 平成22年3月設立 ●参加会員数 10～20名 ●売場面積 120m²
- 取扱品目 葉菜類、果菜類、根菜類、豆類、山菜類、菌茸類、果実類、花き類、畜産物、米穀、加工品(季節によって変動)

「新鮮、安全、安い」を武器に「直売所市場は成長中！」
かつては農家の軒先や、道端での無人販売のイメージが強かった農産物直売所。しかし近年では大規模店舗や多数の出荷者を抱える直売所が増加し、著しい成長が見込まれる販路として注目を集めています。
平成17年時点で、直売所は全国で1万3538店、北海道は757店※1でした。現在では北海道内の直売所数は1000店を超え、市町村や一般企業なども参入し、まだまだ増加していく傾向にあります。
直売所人気を支える要因のひとつが、食に対する消費者の意識の変化です。ニュースなどで食の安全の問題が取りざたされる中、食べ物の「新鮮さ」「安全」を消費者が重視し、地産地消を強く意識するようになり、直売所に並ぶのは多くが地元でとれた旬の農産物です。輸送コストがかからない分、価格も安価に提供できます。消費者のニーズと直売所の持つ特性が合致し、農産物直売所は消費者にとって非常に魅力的で、強く支持される存在となっています※2。

農産物の新たな流通経路として、マスコミや消費者からも注目される「農産物直売所」。その数は近年増加の一途をたどり、北海道でも、各地で次々と新規店舗がオープンしています。今回は農産物直売所をとりまく現状と、人気を集める北海道各地の直売所をご紹介します。

生産者にとってもメリット大 課題は組織や出荷体制づくり

生産者側にとっても、直売所への出荷は販路の拡大にとどまらない多様なメリットがあります。最も大きいのは、資材などの生産にかかる原価を反映した、適正な価格を設定できるということ。また、消費者の顔を見、声を聞く機会を得ることで消費者の動向やニーズをつかむことができ、小ロット・規格外の商品の販売が可能。そのため、高齢者や女性、若者の農業参入を促す効果も期待できます。
もちろん市場の拡大にとどまない、安定した出荷を行うための生産者組織の組成や栽培計画づくり、商品の安全管理は必要不可欠になります。北海道の場合は冬期間の商品の確保も今後の大きな課題です。しかし、これからの農業経営を考える上で、農産物直売所の比重がますます増していくことは間違いありません。農産物直売所には、まだしばらく、熱い視線が注がれ続けることでしょう。

※1農林水産省「2005年農林業センサス」
※2農林水産省「平成18年度農林水産情報交流ネットワーク事業全国アンケート調査 地産地消に関する意識意向調査結果」

まちを知る。まちを訪ねる。



株式会社サングリン太陽園が運営するインターネット・ショッピングサイト「北海道うまいもの農園」も、近日中に農産物直売所の仲間に加わる予定です。その節は先輩の直売所同様、よろしくお願いたします。

サングリン
のある風景

JAオホーツク網走 農産物直売所

網走市潮見185-1
TEL.0152-45-5521(青果課 直通)
●ホームページ
http://ja-okhotskabashiri.or.jp

- 営業期間/4月17日～11月20日
- 営業時間/10:00～16:00(4月のみ14:00)
- 定休日/月により異なる、ホームページで要確認
- P20台



生産者を明記した地元産の新鮮な野菜などを安価に提供。地域の消費者に定着し、高い支持を得ている地元密着の直売所。

- 平成13年設立 ●参加会員数 55名 ●年間来客数 約37,000名
- 売場面積 142m² ●取扱品目 葉菜類30%、果菜類30%、根菜類20%、豆類5%、果実類5%、花き類10%

大地の感動市場

弟子屈町屈斜路193-5

- 営業期間/7月下旬～9月下旬
- 営業時間/9:00～16:00
- 定休日/なし
- P20台



農産物を作った生産者が販売の対応も行っている。地元でとれた旬の、新鮮で安心安全な野菜を提供するほか、特産品の摩周メロンも販売している。

- 平成17年10月設立 ●参加会員数 5名 ●売場面積 40坪
- 取扱品目 根菜類20%、果菜類30%、葉菜類20%、豆類10%、果実類10%、加工品10%

狸小路道産食彩協議会 HUGマート

札幌市中央区南2条西5丁目(狸小路5丁目)
TEL.011-242-8989
●ホームページ http://www.s-hug.jp/

- 営業期間/通年
- 営業時間/10:00～19:00
- 定休日/なし
- Pなし



北海道ならではの越冬野菜や海産物、オリジナルの菓子など幅広い品揃えが魅力。バーコードに生産者の顔を表示するなど消費者の安心を高める工夫も行っている。生産者と消費者の架け橋となるような接客がモットー。飲食ストリートHUGイート(現在10店舗)を併設している。

- 平成20年12月設立 ●参加会員数 222名 ●年間来客数 約230,000名 ●売場面積 約100坪 ●取扱品目 葉菜類、果菜類、根菜類、豆類、山菜類、菌茸類、果実類、花き類、畜産物、米穀、加工品、その他(季節によって変動)

JA新はこだて直売所 北斗へい屋

北斗市東前62
TEL.0138-77-7779
●ホームページ
http://www.ja-shinhakodate.jp/

- 営業期間/通年
- 営業時間/9:00～16:00
- 定休日/月曜(12～3月は日曜)
- P20台



「安全」「安心」「新鮮」な食の提供がモットー。地場産野菜、新はこだて米、トマトジュース等のほか、期間限定で花苗や野菜苗の販売も行う。

- 平成20年5月設立 ●参加会員数 20名 ●年間来客数 約20,000名 ●売場面積 47.16m² ●取扱品目 果菜類30%、米穀30%、葉菜類15%、根菜類15%、花き類3%、菌茸類2%、果実類2%、豆類1%、山菜類1%、加工品1%